

新どさんご研究所、コロナ禍において緊急事態の解除を迎えた道民意識を調査

**北海道民の“新しい生活様式”への理解度は高め。
解除を迎え、第三波への不安も経済停滞への不安も9割。
終息予測時期は、1年以上先が7割と長期戦も覚悟の様子。**

この度、株式会社北海道博報堂（本社：札幌市中央区、代表取締役社長：池田剛）の研究組織「新どさんご研究所（所長：山岸浩之；以下、新ど研）」は、長期化する新型コロナウイルス感染の影響下において、道民がどのような意識で向き合っているかを調査しました。

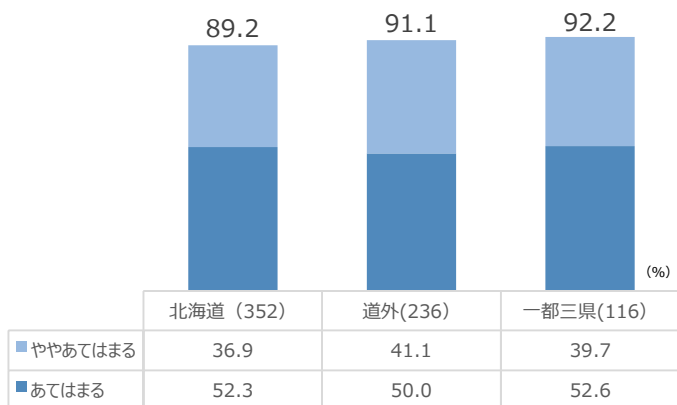
その結果、北海道の緊急事態が解除された中で、第2波・第3波への不安と経済停滞への不安を同時に抱えながら、解除以降も現状の生活を道民の65%が続けたいという意識が確認できました。新しい生活様式へ向けて着実に行動している道民の姿が浮彫となりました。

●感染再拡大と経済停滞への同時不安

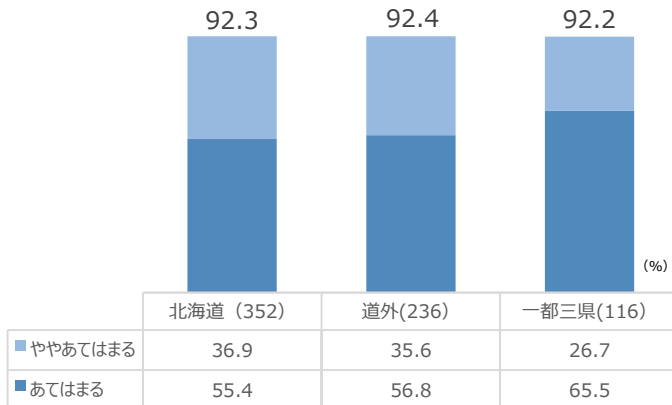
北海道で、感染拡大第2波・第3波への不安は89.2%、道外では90%を超えています。同時に、経済の停滞に対する不安も北海道で92.3%となっており、感染拡大と経済停滞への懸念が等しいレベルで最大化しています。

Q 新型コロナウイルス感染拡大を受け、次のような意見があります。それぞれについて、あなた自身のお気持ちや行動に最も近いもの一つをお答えください。
(あてはまる・ややあてはまる・あまりあてはまらない・あてはまらない)

【感染拡大の第二波、第三波に不安を感じる】



【経済の停滞に不安を感じる】



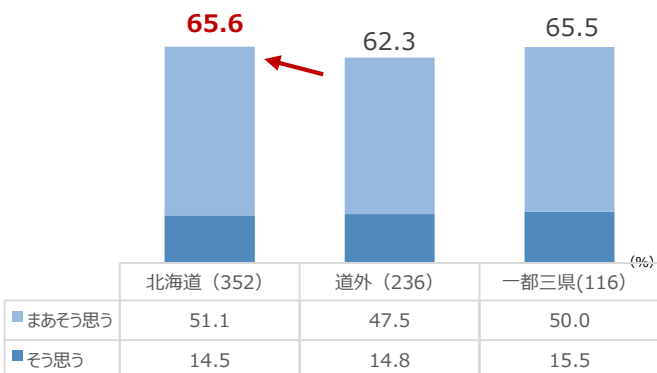
※ 5月25日に北海道と同時に解除となった一都三県（東京都・千葉県・埼玉県・神奈川県）との比較を参考として掲出しています。

●“新しい生活様式”へ一足早く取り組む道民

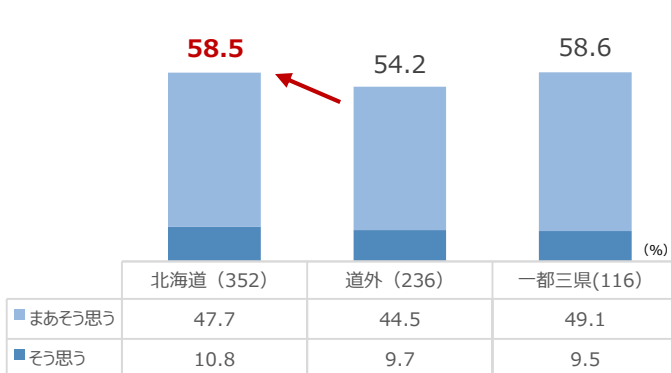
北海道で、“新しい生活様式”について「理解している」人は65.6%と道外の62.3%より高くなっており、また「取り入れている」道民も58.5%と道外の54.2%より高めとなっています。長期の自粛生活で、既に適応しつつある様子。一都三県でも高い傾向となっており、緊急事態宣言が5月25日まで継続していたことが影響していると考えられます。

Q 新型コロナウイルス感染拡大の影響について、以下の項目であなたが思うことをお知らせください。
(そう思う・まあそう思う・あまりそう思わない・そう思わない)

【“新しい生活様式”について理解している】



【“新しい生活様式”を取り入れている】



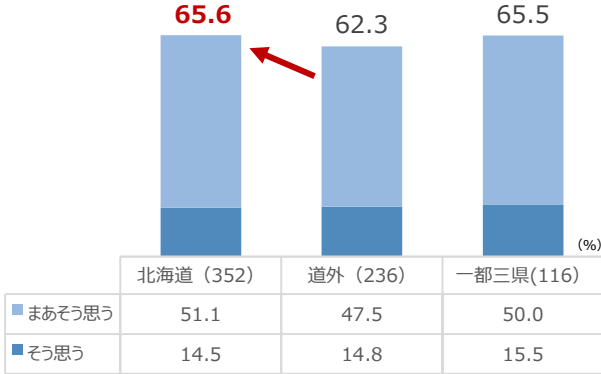
●終息時期は、7割以上が1年以上と予測

緊急事態宣言が解除されても、これまでの自粛生活を変えないという道民は65.6%と道外よりもやや高い傾向です。そして、国内の終息時期の予測としては「約1年後」が最多で34.4%。次いで「約2年後」が18.2%、「それ以上先」が16.5%と1年以上と考える人が69.0%となっています。これは、道外・一都三県在住者よりも長期化の予測となっており、長い目線で取り組む覚悟をしているとも考えられます。

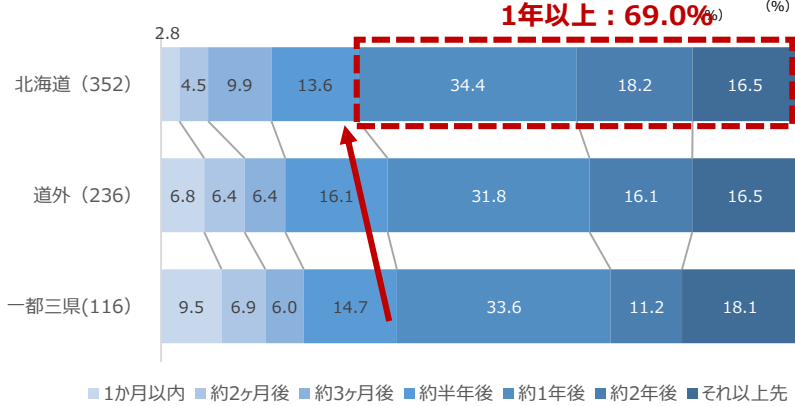
Q 新型コロナウイルス感染拡大の影響について、以下の項目であなたが思うことをお知らせください。
(そう思う・まあそう思う・あまりそう思わない・そう思わない)

Q あなたは、日本国内で新型コロナウイルス感染症が終息する時期は、いつ頃になることを想定・予想していますか。あてはまるものを一つお選びください。

【緊急事態宣言が解除されても自粛生活は変えないつもり】



【日本国内における終息の予想時期】

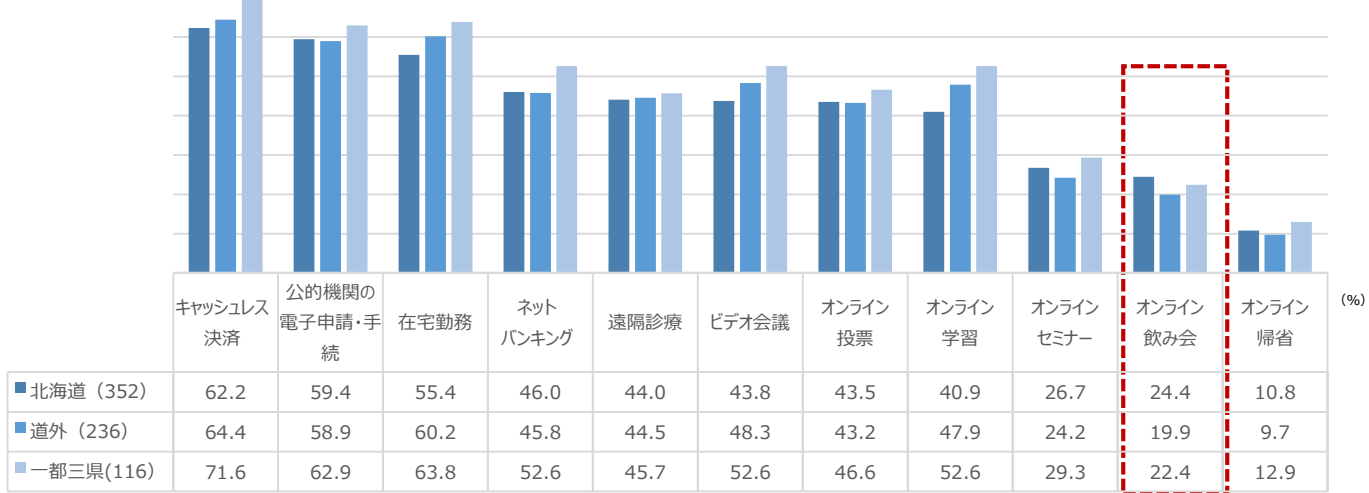


●今後のオンライン化への期待は、キャッシュレス・公的機関の手続き・在宅勤務

今後世の中に普及していくと考えるデジタルサービスは、北海道ではキャッシュレス・公的機関の電子申請・手続き・在宅勤務が5割を超えて高い結果となりました。但し、道外よりもスコアは低めな傾向。唯一、「オンライン飲み会」はやや高めで、遠く離れた家族や友人とのコミュニケーション機会として期待しているようです。

Q 新型コロナウイルスの影響により、あなたが今より世の中に普及していくと考えるデジタルサービスについてお知らせください。(いくつでも)

【普及していくと思うデジタルサービス】



<調査概要>
 ・調査目的：北海道民が新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、どのような意識や行動をとっているかを把握し、今後の研究やマーケティング活動へ活かす。
 ・調査対象：全国 男女10～60代 588サンプル (北海道352サンプル・道外236サンプル)
 ・調査方法：インターネットモニターによるWEBアンケート調査
 ・調査日程：2020年5月22日～23日
 ・調査企画：(株)北海道博報堂 新どさんご研究所 (調査会社：株式会社マクロミル)

【新どさんご研究所 概要】

北海道民の今の姿をデータで明らかにしながら、「一歩先の北海道民＝新どさんご」と定義して、その変化を予測・提言する(株)北海道博報堂が設立した研究組織。



新どさんご研究所 所長

山岸 浩之 やまがし ひろゆき

2014年北海道博報堂入社。コミュニケーション戦略局長兼マーケティング部長として、北海道のさまざまなクライアントの戦略立案やリサーチを担当。博報堂生活総合研究所 客員研究員。

【お問い合わせ先】

株式会社北海道博報堂 新どさんご研究所 担当 ☎011-251-0178 ✉shindoken@hakuhodo.co.jp